

埼玉県山岳連盟 埼玉岳連報第 40 号

発行者 会長 森下健七郎
発行所 理事長 天野 賢一
編集人 広報 岩井田正昭
発行日 平成 23 年 9 月 30 日
発行数 1600 部

埼玉岳連

東日本大震災復興支援 「とどけよう スポーツの力を東北に！」



関東ブロック大会会場・選手を囲んで

巻頭言

日山協・常務理事と自然保護委員長に就任して 石倉 昭一

日本山岳協会 平成 23 年度通常総会 (5 月 15 日) で常務理事に、翌 6 月常務理事会 (6 月 9 日) で自然保護委員会の委員長に就任することになりました。

日山協も 50 周年が終わり、51 年目に入りました。また田中前会長がご勇退されて、新しい神崎会長になり新体制でのスタートとなりました。更に公益法人化への大きな課題に取り組まなければなりません。日本の登山界をリードする日山協として、公益社団法人に平成 25 年 4 月移行を目標に今新役員を中心に取り組んでいる次第です。

どうぞご理解の程よろしく願いいたします。公益法人化に向けて自然保護委員会も、今後「山岳自然環境の保護及び自然保護活動の推進」といった事業を行って行きます。今までの活動からもっと発展させ

せた内容が変わって行かなければなりません。

また「自然保護委員会」という名称自体も変わって行くことになるかもしれません。このような大きな転換期

に日山協の役員を受けることになり、私自身身を引き締めてやって行く所存です。

幸いにして日山協の自然保護委員会の常任委員には、埼玉岳連から岩崎氏を始め 4 名 (浅見・三ツ木・堀江) の方が出ており、また前自然保護委員長は埼玉岳連の長谷川氏です。心強く思っております。最後に、私自身まだ埼玉岳連の副会長を務めてちょうど 4 年目に入ったばかりのところで、更に日山協の役員も受けることになり、今後皆様にはより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 8 月常任理事会 報告

8 月 9 日 (火) 午後 7 時 30 分～
北本市中央公民館第 2 会議室

0 出席 森下・柳原・石倉・福田・天野・瀬藤・野村・土屋・宇津木・岩崎・鈴木・岩井田・長谷川・加藤 (計 14 名) 欠席 大石・村岡・塩谷・町田

1 開会挨拶 (福田副会長) やっと夏らしい季節になりました。宜しくお願いします。

2 挨拶 (森下会長) 今年は懸案事項も沢山あるので召集しました。宜しくお願いします。

3 報告

①7/23-24 関ブロ (水戸市)

審判：土屋委員長・竹中、委員：中央総務 天野理事長、選手：少年男子、少年女子、成年女子出場。
結果→☆少年女子が本大会出場権獲得

②7/28 県体協・評議員選出会議 福田副会長参加

③8/5 「神崎忠男君 (日山協会会長) を励ます会」

(四ッ谷) 石倉・福田・長谷川・加藤 参加

④8/6, 7 加須市山岳連盟・故門間充様の通夜・葬儀
県岳連・加須市岳連他、多数参列

→(ライミング中に脳出血) ※ご冥福をお祈り申し上げます。

4 協議

(1) 登攀技術講習会・指導員研修会 (10/2・指導遭対合同) について (野村指導委員長)

・実施要項配布済み ※多数の参加をお願いします。

(2) 田中名誉会長・日山協会会長退任慰労会のまとめについて (天野理事長)

参加御礼の手紙と写真等 CD の配布済み、CD の残部あり (10 部程) ので希望者は、岩井田広報委員長へ

(3) ホームページについて (森下会長・加藤事務局長)

・ガイドラインの整備をすすめる。

・ホームページの内容について→「広報」を掲載の方向で!

・個人情報保護に関する規定と適用範囲→個別に対応する。

・マニュアルの作成と委員長による更新手続きの実技講習会について

○期日：8 月 30 日 19：00～市立川越高校・図書室

(4) 関東地区スポーツクライミング大会について

(土屋競技委員長)

・実施要項について<別途資料参照>

・準備状況→順次作業を進めていく。

(5) 後援等の申請に関する規約について (加藤事務局長)

・規約の整備→内容等についてご意見ををお願いします。

(6) 財政について (会費、事業等の検討)

(加藤事務局長)

・近県の様子について→調査中・今後→①各会の会員数の調査

(7) エベレスト登山隊について (鈴木海外登山委員長)

大山委員が、来春エベレスト遠征を計画中。隊員を県内で募集したい。

→「広報」に隊員募集をのせる。締切=11 月末

(8) その他

・埼玉県自然保護指導員の推薦について 自然保護委員会に一任。推薦者：天野賢一 (遠峰山岳会) /

土屋正昭 (加須・ピナ) / 井原新一 (槻岳友会) / 吉田秀夫 (JR 大宮山の会) / 内田文子 (川口登山同好会) / 千葉弓子 (同) / 瀬下吉政 (大宮アルパインクラブ) / 長谷川茂 (熊谷山岳会)

・埼玉県体育協会理事の推薦について

→福田副会長にお願い。

・次期会長の選出について

→今後、取り組み方を整備していく。

・「計量はかり」について

→長谷川企画委員長にお願い。規格、写真等

・日和田山のゲレンデ整備 (リポルト) について…

事故の頻発、アルパインとフリーの混在等。

→森下会長が日高市環境課と調整中。現在市有地であり、原則登攀禁止。従って登る場合は自己責任。

事故があっても、市当局に対し責任を問わないこと。

5 各部からの報告等

①指導委員会

●7/3 指導員総会・研修会 (埼玉会館) 27 名参加

※別途資料参照

10/2 登攀講習会・指導員研修会について (飯能・天覧山) ※参加者募集中です。

10/15-16 日山協登攀研修会 (仙台にて開催) ※希望者は野村委員長まで。

②競技委員会

●7/23-24 関東ブロック大会 (茨城県水戸市) 審判員：土屋委員長 / 竹中委員の派遣→審判関係では幾つかトラブルあり (テクニカルインシデント、40 秒ルール他)。

→役割分担、打ち合わせ、規則確認等の徹底も本大会出場権についての約束の理解。

□次期関ブロ・埼玉大会に向けて、審判員の養成が必要。→審判長・競技委員長=B 級審判以上審判員=C 級審判以上の資格。

□国体の開催 平成 30 年度までは正式競技。31 年度以降については、24 年 6 月に日体協が発表

③選手強化委員会

●7/23-24 関東ブロック大会 (茨城県水戸市) 監督・選手派遣

8/13-15 JOC ジュニアオリンピック大会・南砺市

10/1-4 第 66 回国民体育大会 (山口県)

- 成年男子／監督：佐藤豊／選手：小峰直城・古川 慧
 ○少年女子／監督：岡野次男／選手：尾上彩・酒井絢音
 ○総監督：宇津木秀二／応援団：森下・小茂田・天野他
 ④遭難対策委員会

○レスキュー研究会（室内）10月1日（土）場所未定
 ※直接瀬藤委員長へ問い合わせ

○冬山遭難防止講習会 11月26日（土）～27日（日）
 スポーツ総合センター（※別途資料参照）

⑤自然保護委員会

- 6/4-5 清掃登山 ※9月に報告書をまとめます。
 9/10-11 「和名倉山」登山及び植林地整備 前回
 配布資料 ※参加者募集中です。

⑥海外登山委員会

- 6/24-7/9 ボリビア登山（茨城岳連と合同登山）

★天候等悪く、敗退、

9/4～10/14 彩の国マナスル登山隊 2011 海外委員 3
 名（大山光一・風間進・細谷宜朗）参加

9/2 マナスル登山隊壮行会（海外委員会内）（大宮・ポ
 プラ 19時～）

⑦ジュニア委員会

8/9-13 インターハイ（青森県）岩木山・北八甲田山
 →男子：春日部工業高校 女子：久喜高校 出場

⑧広報委員会

9/末第 40 号発行 ※指名された方は、原稿の執筆をお
 願いします。

⑩事務局

○負担金の納入状況、22-23 年度会員証発行状況。
 ※宜しくをお願いします。

「東日本大震災復興支援に関わる冠の付与に関するご
 協力について」依頼あり。

冠名称：「東日本大震災復興支援」

副題及びキャッチフレーズ：

「とどけよう スポーツの力を東北へ」

6. 閉会挨拶（石倉副会長）

夏本番。安全登山でお願いします。

第 66 回 国民体育大会 関ヶ原大会 山岳競技

7月23日～24日の2日間、関東ブロック大会が茨城県（水
 戸市）スポーツセンターで開催され熱戦を繰り広げました。

総合順位は成年女子7位、少年男子は5位、少年女子
 が2位入賞で本大会の出場権を獲得し山口国体の切符を
 手にしました。

本県の選手団は 総監督・天野賢一理事長、
 成年男子・杉 卓洋、小峰直城・監督 佐藤 豊
 少年女子・尾上 彩、坂井洵音・監督 岡野次男
 支援隊 ・森下会長、小茂田強化員

10月2日～4日にかけて競技が行われます。

※成年男子・古川慧選手は都合により杉卓洋選手に交代。

応援をよろしくお願ひします！

平成 23 年度 県岳連指導委員・総会議事録

- 1・日 時 平成 23 年 7 月 3 日（日）
 13 時 30 分～14 時 30 分
- 2・場 所 埼玉会館 7A（くぬぎ）会議室
- 3・開 会 野村指導委員長より開会のあいさつ
 （今回の総会が、平成 21 年度に総会を実施した後
 の総会であることを報告）
- 4・議長選出 規定により野村指導委員長から、あゆむ
 山の会・秋庭氏を推薦し満場一致で了承された。
 同じく書記に春日部登高会・計良氏を選出承認。
- 5・議 事
- 議題に入る前に、秋庭議長より議長挨拶後、本日の会
 議の成立の報告。総数 88 名に対して委任状 31 名、出
 席 27 名で計 58 名、会議成立要件の 1/2 以上超を報告
- 秋庭議長より、第 1 号議案・平成 22 年度事業報告、第
 2 号議案・平成 23 年度事業計画、第 3 号議案・平成 21
 年度～23 年度の予算案決算について、一括上程。
- 野村指導委員長から説明
 第 1 号議案「平成 22 年度事業報告について」
 県岳連関係 天覧山での登攀講習会から積雪期講習会、
 指導員養成講習会について報告。指導員養成講習会の
 指導員「7 名」上級指導員「16 名」計 23 名が全員合格
 し日山協の理事会で承認されたことも報告。
- 日山協指導常任関係報告
 第 2 号議案「平成 23 年度事業計画について」
 県岳連関係、日山協関係事業計画を報告。資料中、日
 山協の 10 月登攀講習会の富山→宮城の仙台に訂正
- 第 3 号議案「平成 21 年度予算及び決算について」
 「平成 22 年度予算及び決算について」、「平成 23 年度
 予算及び決算について」
 平成 22 年度主任検定員養成に瀬藤遭対委員長を派遣
 のため、派遣補助した。また、装備においてザイルを
 購入しました。平成 23 年度から収入において、指導員
 の更新が少なくなり、これから収入が見込めないの
 で、繰越金などを節約しながら、効率的な運営をして行
 かなければならないので、ご理解いただきたい。
- 秋庭議長より、今迄の説明に対して質問・意見を求めた。
 Q：指導員名簿の削除状態の「期限切れ」は、どうい
 うことか。
 A：それについては、後の説明の時に答えます。
 Q：平成 21 年度予算の収入はで、4,000 円×20 名でな
 く 12 名では。
 A：予算では、更新該当が 20 名であったが、実際収入
 は 12 名です。
 Q：平成 23 年度から 4 年間は収入が無いとのことだが、
 どのようにやっていくのか。
 A：予備を温存しながら運営していくしかないが、新規の
 指導員の会費がいくらか入ってくる予定です。しかし

ながら、節約が必要です。

- 秋庭議長：他に質問が無いために、承認のため拍手をもって決することを宣言。→拍手多数で、承認された。
- 野村委員長：その他ということで、先ほどの指導員の件に関して、日山協のマスターに入っているものから、個人情報を除いたものを載せたものです。手続きをしてない方です。新規から4年間の研修会の記録がないと更新ができない。未納者は10人位いる。更新のための義務研修後、期限の6月前までに手続きをしなければならぬ。
- 議題のその他：として、野村指導委員長から指導員制度に他ついて説明
 - ・新しい指導員制度・指導員資格失期間の復活に関して、平成23年11月26日以降の申請適用にから、そのためには、4年間うちの更新研修会記録(証明書)と県体協に適用申請をする。5,000円必要。
 - ・セディナとのカード業務提携終了：カードの有効期限まではそのまま、それ以後は振り込み用紙が送られてくる。
 - ・新規登録管理システムの構築がされる。日本山岳協会の「平成23年度指導委員総会資料」を、概要説明。
 - ・議長：説明に対して質問を図ったが、質問が無かったため、秋庭議長退任の挨拶。
- 閉会：野村指導委員長より指導員総会の閉会を宣した。15分休憩後、佐藤博・上級登攀プロガイドによる指導員研修を引き続き行うことを報告し総会は終了しました。

記録 指導委員長 野村善弥



佐藤講師による1/3引上げ法の実技

《彩の国マナスル登山隊 2011》

埼玉県山岳連盟 後援

9月5日に羽田空港より出発したマナスル登山隊は現在遠征中です。日程はBC着：9/12、C1着：9/15、C2着：9/16→BC(4850m)へ一旦下降して順化のため9/18～9/20滞在、C1着(5750m)：9/21、C2着(6350m)：9/22、C3着(6750m)：9/23、C4着(7400m)：9/24、頂上(8163m)アタック9/25の予定です。帰国は10月14日ですが早まる事もあります。順次情報入り次第HPでお知らせします。

海外委・岩井田

- 隊長 ・大山光一 (海外登山委員/山岳同人比企)
- 副隊長 ・風間 進 (海外登山委員/浦和溪稜山岳会)
- 隊員 ・細谷宣朗 (海外登山委員/加須 SCC)
- 留守本部・岩井田正昭 (海外登山委員/川越山の会)

2012年春エベレスト(8,848m)登山隊 参加者募集

2011年7月吉日

山学同人比企 代表：大山光一 (海外登山委員)

2012年春、ヒマラヤ山脈に聳える世界最高峰のエベレスト(8,848m)に、ネパール側から登山隊を派遣することを検討しています。目的は世界最高峰のエベレストの山頂：地球のテッペンに、埼玉県山岳連盟旗を掲げること。また、次代を担う若者、団塊世代を生きる仲間たちへ、あきらめなければ夢は叶うということを伝えたい。そして、埼玉岳人に憧れのヒマラヤ高所登山を堪能していただきたく、下記の要領で、登山隊員を募集致します。

- 1 目標山岳：世界最高峰：エベレスト(8,848m)東南稜より登頂
- 2 目的：① ネパール側より、エベレスト(8,848)全員登頂
② 次代を担う若者、団塊世代を生きる仲間たちへ可能性を伝える
- 3 期間：2012年4月中旬～5月下旬 (登山期間：6週間程度)
- 4 費用：見積り中 (3～4名の場合、一人あたり約400万円)
- 5 応募資格：① 過去に高所登山(6,000m級以上)の経験のある方
② 世界最高峰に登頂しようとする強い意思がある方
③ 自己管理、自己責任を有し、協調性のある方
- 6 締め切り：2011年11月30日(水)
- 7 問い合わせ：大山 光一(電話：0493-23-0498)

埼玉岳連報 創刊号から40号

発行日	号数	刷版	部数	ページ	発行人	編集者	一面記事タイトル及び執筆者	備考
S30.8.28							埼玉県山岳連盟 創立	
S33.7.1	創刊号	B5縦		6 P	池田甚兵衛	尾崎 正義	『埼玉岳連の歩み』池田甚兵衛	※S34年～S45年発行なし
S46.10.1	第1号	〃		4 P	清水武甲	田中 文男	『話合いの広場に』清水武甲	
S47.10.1	第2号	〃		4 P	〃	花輪 滋実	『登山に思う』清水武甲	
S48.1.1	第3号	〃		4 P	〃	〃	『これからの大衆登山』三浦一郎	
S48.4.1	第4号	〃		4 P	〃	〃	『自然に入って行こう』大沢亮一	
S48.9.1	第5号	〃		4 P	〃	〃	『山について気のついた事』野井 篤	
S48.10.1	第6号	〃		4 P	〃	〃	『遭難は予防できる』三浦一郎	
S49.11.1	第7号	〃		4 P	〃	〃	『冬山登山に願う』清水武甲	※S50年～S56年発行なし
S57.7.10	第8号	〃		6 P	〃	大久保 孟	『県岳連運営について』田中文男	
S57.12.15	第9号	〃		4 P	〃	〃	『奥秩父の登山道』清水武甲	
S59.3.15	第10号	〃		6 P	〃	〃	『ご挨拶』全日大会清水武甲	※S60年～H8年発行なし
H9.10.1	第11号	〃		6 P	浅見 豊	〃	『ご挨拶』開プロ 浅見 豊	※H11～H13年発行なし
H14.2.28	第12号	A4縦	1500	6 P	田中文男	岩井田正昭	『2002年を迎えて』田中文男	※5年ぶりの復刊
H14.6.30	第13号	〃	〃	8 P	〃	〃	『アジエンタ'21埼玉』自然保護部	
H14.2.28	第14号	〃	〃	6 P	〃	〃	『少年男子1位・関東突破』広報委員会	
H15.3.31	第15号	〃	〃	8 P	〃	〃	『よさこい高知国体』速報 広報委員会	
H15.6.30	第16号	〃	1600	8 P	〃	〃	『平成15年度評議員総会』開催 広報委員会	
H15.9.30	第17号	〃	〃	8 P	〃	〃	『第6回ジュニアオリンピックカップ』森下健七郎	
H15.12.31	第18号	〃	〃	8 P	〃	〃	『静岡国体で考えたこと』田中文男	
H16.3.31	第19号	〃	〃	4 P	〃	〃	『国体選手慰労会・新年会』広報委員会	
H16.6.30	第20号	〃	〃	10 P	〃	〃	『平成16年度新役員』きまる 広報委員会	
H17.1.31	第21号	〃	〃	6 P	〃	〃	『2005年新しい目標に向かって進もう』田中文男	
H17.5.31	第22号	〃	〃	8 P	〃	〃	『平成17年度評議員総会』報告 広報委員会	
H17.12.31	第23号	〃	〃	8 P	〃	〃	『お礼の言葉』会長・田中文男	
H18.4.30	第24号	〃	〃	12 P	〃	〃	『巻頭言』理事長・村岡正巳	
H18.10.31	第25号	〃	〃	12 P	〃	〃	『巻頭言』会長・田中文男	
H19.2.28	第26号	〃	〃	10 P	〃	〃	『未来を明るくするために』理事長・村岡正巳	
H19.4.30	第27号	〃	〃	8 P	〃	〃	『平成19年度評議員総会』報告 広報委員会	
H19.9.30	第28号	〃	〃	8 P	〃	〃	『62国体・関プロ山岳競技から』土屋正昭	
H20.2.29	第29号	〃	〃	8 P	〃	〃	『日本的世界標準』村岡正巳	
H20.5.31	第30号	〃	〃	10 P	森下健七郎	〃	『新会長に就任するに当たって』森下健七郎	
H20.9.30	第31号	〃	〃	10 P	〃	〃	『全国総体登山大会を終えて』森下健七郎	
H21.1.31	第32号	〃	〃	10 P	〃	〃	『新年のご挨拶』森下健七郎	
H21.5.31	第33号	〃	〃	10 P	〃	〃	『新理事長に就任して』天野賢一	
H21.9.30	第34号	〃	〃	12 P	〃	〃	『日山協・自然保護委員長に就任して』長谷川茂	
H22.1.31	第35号	〃	〃	8 P	〃	〃	『巻頭言』会長・森下健七郎	
H22.5.31	第36号	〃	〃	10 P	〃	〃	『平成22年度評議員総会』報告 広報委員会	
H22.9.30	第37号	〃	〃	8 P	〃	〃	『千葉本国体で入賞!』小茂田利孝	
H23.1.31	第38号	〃	〃	10 P	〃	〃	『新年のご挨拶』森下健七郎	
H23.5.31	第39号	A4横	〃	10 P	〃	〃	『日山協会会長退任のご挨拶』田中文男	※縦書から横書へ
H23.9.30	第40号	〃	〃	10 P	〃	〃	『日山協・自然保護委員長に就任して』石倉昭一	

『埼玉岳連報』40号発行にあたって

広報委員長 岩井田正昭

ひょんなことから、県岳連・広報誌の発行に手を出してまもなく10年目、12号から創めて今回40号を発行することになりました。いつの間にか齢とともに号を重ね、多くの方に、原稿！原稿！とお願ひし、無理矢理に提出戴き深く感謝してます。あるときは宿泊先のホテルからFAXで原稿頂いたり、夜中にメールで貰ったりしました。

時には何も原稿が無い事もあり、やむなく事務局で出した報告書、資料等を再掲載したりして帳尻を合わせた事もありました。

最近は快く提出戴く様になり、順調に号を重ねてますが、納得の行く広報誌にはまだまだ工夫が必要です。

今後は開設したHPと情報の共有を考える必要もありますので重要な情報は今まで通り「紙」に残すつもりで取り組みたいと思いますので宜しくお願いします。

下記は初めて発行された55年前の岳連広報誌で昭和33年7月1日発行 埼玉岳連・第1号 から抜粋した巻頭言です。(文中旧漢字の此は広報委による)



『埼玉岳連の抄み』^{あゆみ} 理事長 池田甚兵衛 ※注1

昭和30年8月秩父長瀨養浩亭に呱呱の声を挙げてより此処に三年の歳月を経たが、埼玉岳連は以来^た撓ゆみない歩みを続けて来た。※注2

県内岳人の要望によって統合結成された当初は、各地区の山岳団体間の連絡、岳連の組織化に終始し、目的とする諸事業を行うことはできなかったが、岳連の活動は、各地区山岳団体の協和交流を基盤として初めて展開推進されるものであることからすれば、意義のある揺籃期であった訳である。此の多端な期に当たった熊谷岳連八木橋、原田、秩父岳連清水、中村諸兄の御尽力を感謝する次第である。

これら諸兄より埼玉岳連の運営を川口岳連が受け継いで現在に至ったのであるが。過去二年を回顧するに、手

取り足取りで歩を運ぶまさに幼年期であった。それも各地区岳連諸兄の友情と協力を得てのことは言う迄もない。埼玉県体育協会加盟※注3、名実ともに県内岳界の代表機関として進むべきを自覚し、各種事業を計画実施に移す段階に入ったが、その第一歩として昭和31年度県民体育大会に登山種目を新たに加え十月秩父笠取山集中登山を挙行した。各地区岳連より参加者九〇余名と云うさゝやかな山行ではあったが、清新の気溢れた埼玉岳連の門出に適しい意義ある大会であった。

これを機にして、各地区岳連の活動は活潑となり、未組織地区には岳連の組織化、埼玉岳連への加盟を促がした。折柄、全日本山岳連盟が全国岳人の期待を担って結成され、着々と全国組織に伸長していたが、埼玉岳連はより広い視野をもち、より高いものを求めて進んで行くべきを自覚し、全岳連に加盟した。これによって埼玉岳連は、登山理念に於ても、活動面に於ても大いに益するところがあった。かくして昭和32年度に入ったが、登山人口の激増による登山道徳の低下、遭難事故の頻発に対して積極的な活動を進めて行かなければならなくなった。

登山即遭難と迄誤解されるに至り、全岳連として遭難防止対策に積極的に取組み、埼玉岳連にも協力を要望して来た。これらの運動は全国的に展開して行くべきは勿論、各地区の特殊条件を加味してこそ初めて生きて来るものである。埼玉岳連としては協議の結果、真の登山の普及と岳連加入促進の方針を執った。この方針のもとに、秩父両神山県体登山大会、秩父武甲山関東地区大会を実施したが、所期の成果を挙げることが出来たと思う。又一方、より高度の登山をとの要望が岳連諸兄より出たが、今後これに就ても応じて行かねばならないことは当然である。諸兄の叱咤を感謝するものである。冒頭、^た撓ゆみない^{あゆみ}歩みを続けて来た^{つまつ}と書いたが、回顧してみるに自画自讃であるようだ。躓きよろめきした遅々たる歩の運びであったようだ。

この七月をもって、埼玉岳連の運営を飯能岳連にバトンをお渡しするが、大沢兄※注4を中心とする飯能岳人諸兄の熱情と努力は。遅々たる歩の運びを、青年の若さ溢れる歩みと変え、埼玉岳連の前途は輝やかしいものとなるを確信して疑わない。

各地区岳連諸兄の友情と協力を感謝して筆を擱く。

※注1：池田甚兵衛→(元埼玉岳連・理事長/副会長/顧問を歴任・元川口登高会代表)

・昭和39年夏に『カガ親善登山・埼玉岳連隊(カガ・アルパーター峰・隊長・池田理事長)』→県岳連最初の海外登山隊と思われる。

※注2：山岳連盟発足時は会長・清水武甲、副会長・高橋哲二、原田義雄、理事長・中村正男、事務局・尾崎正義。池田甚兵衛理事長は2代目となる。

※注3：埼玉県体育協会に加盟は昭和31年4月。

※注4：大沢兄→大沢亮一(元埼玉岳連・理事長/副会長/顧問を歴任・元飯能嶺岳会代表)

※ 編集注・文中敬省略

『岳連報 40 号発行に寄せて』

事務局長 加藤富之

ミレニアム：2000 年を迎えた埼玉岳連では、それまで休刊が続いた『岳連報』の発行が、岳連活動の要として課題でありました。理事会や総会、各種大会や事業を行っても、その結果や様子が参加されなかった皆さんに伝わらないと、ごく一部の人のだけの活動となり、岳連全体で共有することができませんでした。

そんなとき、遭対委員会の講習会が天覧山で開催された折、元浦和市岳連遭対委員長岩井田氏に出会い、話しは『岳連報』のことに及び、良い感触を得ました。その後、福田理事長も加わり、母体の「あゆむ山の会」の佐藤会長さんにもお願いして、岩井田広報委員長が誕生しました。

その後は、精力的に原稿収集と取材に駆け回り、毎号の紙面をバラエティーなものに作り上げ、今日に至っています。受け継いだ時は、44 年間で 11 号でしたが、それから 10 年で 40 号という大台にのせ、編集と発行に邁進しています。時々「原稿を書いてよ！」と言われますが、こちらも毎月の理事会等の報告で手一杯。結局ほとんど岩井田委員長の手弁当で取材され、編集され発行されています。

しかし、この頃は原稿依頼をすると原稿が沢山集まり、紙面の割り振りに四苦八苦の時もあるとかで嬉しい悲鳴のようです。

8 月の、常任理事会で「7 月の理事会の時、新理事さんが「『岳連報』を初めて見ました。」と言っておられたことに驚いておりました。40 号まで発行しているのに、まだ見ぬ人もいる現実…。これからは各会で効率的な配布をお願いすると共に、新しい形での広報のあり方も考えていかねばと思います。時代はデジタルですが、印刷というアナログは大変貴重な仕事です。今後も、紙媒体の印刷物の味わいのある記事を楽しみたいと願います。

末永く編集・発行にご尽力されますようお願い申し上げます。

田中文男名誉会長・日山協会長退任慰労会報告

〈日山協登山月報 509 号より転載〉



田中文男名誉会長ご夫妻を囲んで県岳連参加者

さる 6 月 25 日（土）、さいたま市の浦和ロイヤルパインズホテルにおいて「田中文男名誉会長・日山協会長退任慰労会」（主催：埼玉県山岳連盟、協賛：（社）日本山岳協会）が開催されました。

田中名誉会長は平成 13 年からこの平成 23 年 5 月に退任されるまで、実に 10 年間にわたり日本山岳協会の会長を務められました。これまでの功績は今更申し上げるまでもなく、組織や財政の強化はもとより、様々な登山活動の活性化や山岳競技発展への尽力、国際的要職の歴任などたいへんご活躍でした。さらにその間、我々埼玉県山岳連盟の会長としても多岐にわたる岳連活動をけん引し、2004 年の埼玉国体や 2 度のクライミング W 杯などを成功へと導いています。これだけ山関係の多方面において要職を担い様々な事業をこなし、そして「社会福祉法人子供の町」では理事長として多くの子供達の面倒を見ながら、さらにはご自身の会社の経営。その公私にわたる激務ぶりはまさに驚嘆に値するものです。これまで本当にお世話になるばかりの我々でしたが、田中名誉会長の長年の御苦勞に対する慰労と感謝の気持ちを込めて、今回このような会を開催させていただきました。

そして当日は本当にたくさんの皆様にお集まりいただき誠にありがとうございました。合計 152 名の皆様のご出席をいただき、準備段階では会場に入りきれなくなるのではないかと心配をさせられたほどでした。当初は県内関係者だけの予定で準備を始めたこの慰労会でしたが、日山協及び各方面との調整の中で徐々に門戸を広げていくこととなり、招待者の数も大きくふくれあがりました。結果として余裕のないスケジュールとなり参加者の方にもご負担やご迷惑をおかけすることになり、この場をお借りして深くお詫び申し上げます次第です。しかし結果的には各界を代表するそうそうたる皆様方のご出席を賜ることになり、あらためて田中名誉会長の人間関係の広さを感じさせられました。

開会後においては、当岳連の森下健七郎会長による、田中名誉会長の超人ぶりをあらわす経歴の紹介の後、たくさんのご祝辞をいただきましたが、日山協の新しい会長に就任された神崎忠男様からは「日山協の役員は素晴らしい陣容が揃っており、これからも右上がりを行くに違いありません。既成概念にとらわれず新しい日山協を作っていく」という力強いご挨拶がありました。また余興では、6 年前の埼玉県岳連創立 50 周年記念式典でも披露された、秩父屋台囃子の勇壮な太鼓演奏が会場一杯に響き渡り、雰囲気も一気に盛り上がりました。そして埼玉県岳連からの花束と記念品の贈呈。ことに花束は、時には田中名誉会長以上の御苦勞があったに違いない奥様へも贈らせていただきました。またプレゼンターは、田中名誉会長がかれこれ 30 年近く前、狭山ヶ丘高校の山岳部顧問をされていたときの山岳部員だった方で、今回の会のため栃木的那須町より駆けつけていただきま

した。そして田中名誉会長より謝辞。「こんなにも大勢の皆様にお越しいただき心より御礼申し上げます。そしてこれまで支えてくれた家内に何より感謝したい。また無事戻ってきた私を暖かく迎えてくれた埼玉県岳連にも感謝申し上げます。」とご挨拶されました。



勇壮な秩父屋台囃子の太鼓演奏

無事慰労会も終え、これで田中名誉会長も様々な心労から開放され、ご自分の時間を持つことができるようになることと思います。まだまだ未熟な我々がこの先もご指導を仰ぐことがあるかもしれませんが、どうぞこれからはご自身のため、そして奥様のために貴重な時間や生活を振り向けていって下さることが岳連一同の願いであります。

最後になりましたが、この度の慰労会の開催にあたりお世話になりました関係者の皆様に深く御礼申し上げますと共に、今後ともご指導いただけますようどうぞよろしく願い申し上げます。

「田中名誉会長・日山協会長退任慰労会」
実行委員長 天野 賢一

第 1 回 埼玉セッション 2011 報告書

記：深谷山岳会 岡田 修



セッション参加者 古賀志RGにて

■日 時 平成 23 年 6 月 18 日 (土) ~ 19 日 (日)
■場 所 古賀志RG宇都宮森林公園内第 1 キャンプ場
■参加者 (五十音順) 全 19 名

6/18-19

浦和溪稜山岳会 : 瀬藤武 (岳連副理事長) 風間進、
内海正人
遠峰山岳会 : 稲葉龍太郎、藤井大輔
たらっぺ山の会 : 石橋修
深谷山岳会 : 岡田修、室賀啓希
無名山塾 : 鈴木百合子 (岳連理事) 松本善行

6/19

大宮アルパ インクラブ : 町田週一 (岳連理事) 金田真紀子、
小川銑治、布村英夫、藤森久美、洞谷
敦、大久保康子、横田司、佐々木純子

■行動概況 (敬称略)

6/18(土) 12 時過ぎ。

岡田・室賀 (深谷)、少し遅れて石橋 (たらっぺ) が古賀志RGに到着。降雨で登れず。16 時過ぎ 宇都宮森林公園キャンプ場にて幕営等準備。18 時過ぎ 稲葉 (遠峰) 到着。20 時前後 藤井 (遠峰)、瀬藤・風間 (浦和溪稜)、鈴木・松本 (無名山塾) が到着。

乾杯とともに自己紹介。稲葉氏からWCM報告を受ける。交流会。

22 時頃内海 (浦和溪稜) 到着→全員集合。25 時まで交流。

6/19(日) 各自起床、朝食。撤収。石橋・稲葉帰宅。

9 時頃 古賀志RGへ移動。フリークライミング。

10 時過ぎ 大宮アルパ インクラブ 9 名と不動滝広場で合流。

13 時頃 岡田の主旨説明と自己紹介。瀬藤・風間・内海・

鈴木・松本帰宅。残るメンバーでフリークライミング。

16 時過ぎ 岡田・室賀・藤井帰宅。

■開催の経緯

2010 年の山岳指導員講習を通じて知り合った方との交流が、そもそもの発端である。各会のリーダー級が自分の所属する会のことを話しているなかで、さまざまな共通点がわかった。また登山行為に目を向けると、アルパイン志向の人間の少なさを感じた。反面この講習会を通しての交流は、自分の登山行為に対するモチベーションを上げてくれた。他会の人たちとの交流は新たな視点と刺激を与えてくれる。近い将来また集まらないのか。

そう感じていた頃、岳連の天野理事長と加藤事務局長が、2011 年 2 月に開催された第 3 回WCMに参加した稲葉氏 (遠峰山岳会) を招いての講演・交流会を企画していることを知った。講習会で知り合い、岳連理事でもある鈴木氏 (無名山塾) から連絡をもらい、是非集まらしましょうという話になった。そこで同じ会に所属する多忙な加藤事務局長に代わり、開催の幹事を務めさせていただくことになった。

■所感

開催はかなり流動的でした。日程が決まったのが 4 月

下旬。場所は5月上旬に一旦決まったが、直前に変更ということになりました。集まりやすさを優先したと告知しながら、場所が遠くなってしまったのは私の調整不足でした。また案内も知り合い+αという限定的なものになってしまい、告知不足でした。次回はこれらの点を改善したいです。

ただ形はどうあれ、「集まった」という事実は、参加者がそこに何らかの価値と可能性を見出したからだと思います。セッションを終えた個人的な感想は、「楽しかった。やって良かった」というものです。同じ埼玉岳連に加盟しても、どんな山岳会があり、何をやってるのか、顔も知らないという人がほとんどだと思います。Web上で大体のことはわかる時代になりましたが、生身の人間(山ヤ)同士、膝を突き合わせて語る方が格段に得られるものは多いはずだと思います。稲葉氏からのWCMの「生」の声はその最たるものでした。またそれは参加者にとって大きな刺激となり、必ず今後の登山行為に生きてきます。それぞれが自分の会にフィードバックし、各会の活性化につながれば、それがそのまま岳連の活性化につながると思います。

■今後の展望と課題

今回は他会の雰囲気と登り方がわかりました。次回は「ザイルを結んで一緒に登る」を実行したいです。実践を通して技術と思考の交流ができれば、さらにレベルアップできるでしょう。そして気軽に山へ誘い合えるようになり、将来的には単会では為し得ないプロジェクトを実行できれば、この集りがさらに価値あるものとなるでしょう。



Y.M

第2回レスキュー研究会に参加して

無名山塾 鈴木百合子

県岳連・遭難対策委員会主催のレスキュー研究会に参加してきた。「レスキュー研究会」(通称:レスキュー研)は、遭難対策委員長・瀬藤武さん(浦和溪稜山岳会)の呼びかけで、今年度から立ち上げられた企画で、登攀やセルフレスキューのベースとなっているロープワークを、できるだけ実証実験をまじえながら、根本のところから検証してみようというのがその趣旨。ロープワーク研究という地味でおもしろみにかける印象だが、第1回から「目からウロコ」「息をのむ」といった貴重な体験をさせてもらっている。

第2回目のレスキュー研は、6月4日、久喜市のとある保全倉庫をお借りし、「ロープに荷重がかかった時の挙動を確認する」をテーマに行われた。天井クレーンを用いた本格的な引っ張り強度試験で、装置能力は5t

(50KN)。原則としてロープが切断するまでを、つぶさに観察することができた。

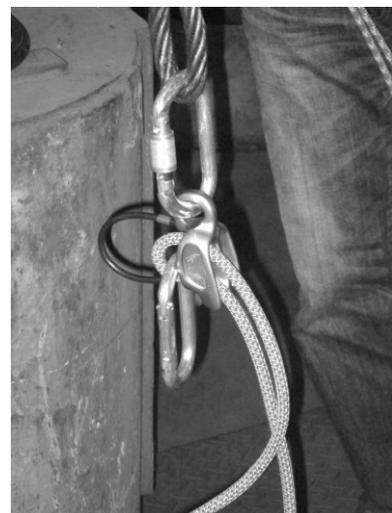


《試験前の各種ロープの準備》

懸垂下降時の末端処理やロープ連結結び、タイブロックやルベルソキューブ等の落下防止つきギア、各フリクションノットなどにつき、それぞれ衝撃荷重がかかった際の状況を観察し、また強度の違いを実証していった。

特筆すべきは、落下防止ギアについてで、ATCガイドやルベルソキューブは衝撃荷重によりロープ径が細くなるため、ロック機能が外れてしまった。またガルダ、ビエンテ、ロレンツェといったカラビナを使ったオートブロックについても、ガルダをのぞき、衝撃荷重によりカラビナが回転して、あっけなくロック機能がはずれてしまった。強度の強いカラビナによるオートロックが推奨されていただけに衝撃だった。

目の前で破断していくロープを見ていると、ロープは生き物だ、そんな印象をもった。ロープを扱う意識が変わってしまったといってもいいかもしれない。何気なく行っているロープワークだが、その安全性は、確実なロープワークの下でかろうじて確保されているだけと考えた方がよさそうである。



《ルベルソキューブ セット状態》

【専門委員会・計画】23 年 10 月～24 年 1 月

①事務局

- 10/11 ・常任理事会：北本
- 10/14 ・埼玉県ポーツターゲ-推薦《登録締切り》
- 11/8 ・理事会：北本
- 11/11~12・安全登山普及指導者中央研修会：富山
- 11/29 ・安全登山を考える集い：蕨市立中央公民館
- 12/13 ・常任理事会：北本
- 1/20 ・理事会/新年会：(場所未定です)

②指導委員会

- 10/2 ・登攀講習会/指導員研修会：天覧山
- 10/15~16・日山協登攀研修会：仙台
- 11/12~13・公認ポ-ツ指導者講師全国研修会・神奈川県

③競技委員会

- 11/13 ・関東地区ポ-ツクライミング大会：加須
- 12/11 ・ポ-ツクライミングカップ：加須
- 12/24~25・第 2 回全国クライミング高校生大会・加須

④選手強化委員会

- 10/1~4 ・第 66 回国民体育大会：山口県

⑤遭難対策委員会

- 11/26~27・冬山遭難防止講習会：上尾ポ-ツ総合センター

⑥自然保護委員会

- 10/15~16・日山協自然保護委員総会・鳥取県
- 12/17~18・雲取山自然観察会・雲取山

⑦海外登山委員会

- 9/4~10/14・マサシ登山隊(大山、風間、細谷)
- 11/1 ・委員会定例・大宮ポ-プラ

⑧ジュニア委員会

- 10/18 ・高体連常任委員会・川越工業
- 10/30~31・高体連西部地区新人大会・吉田町

⑨広報委員会

- 1/中 ・委員会定例・大宮ポ-プラ
- 1/31 ・広報誌 41 号発行

⑩企画委員会

なし

【事務局便り】

下記新役員のご案内がありました。 敬省略

(社) 東京都山岳連盟 平成 23 年～24 年度新役員

- 会 長 佐藤 旺
- 副 会 長 松元邦夫、寺内丈行、宮地由文
- 専務理事 亀山健太郎
- 事務局長 大場俊男
- 理 事 松本 敏、中嶋正治、瀧本 健、
山中信幸、吉田信一、廣川健太郎、
永井 豊、小池正器、鈴木和雄、
福田博信、佐藤 博、原誠一郎、
中瀬和徳、西山常芳
- 監 事 中村忠敬、砂田定夫、波木正司

県自然保護委員会が功労者表彰を受賞！

おめでとうございます

この度、環境省自然環境局長表彰である「自然歩道関係功労者表彰」を「埼玉県山岳連盟自然保護委員会」が受賞することが決定との通知がありました。

(長年、清掃登山をはじめとした様々な活動をしていただいている事に対する表彰) 県自然環境課 h23.9

訂正とお詫び

岳連報 39 号掲載の中で文章の誤りが在りましたので訂正させていただきます。

※39 号 2 頁《理事会》協議事項 - 4 項 の記述中の「(記念切手について)田中名誉会長より補足説明あり、日体協の記念事業の一環として提案し採用された。毎年 10 枚×5 年=50 枚発行予定」とありますが正しくは「日体協百周年記念切手、田中名誉会長が提案をし、郵便事業会社に承認される、ついでに日山協 50 周年記念切手を、と思ったがこれは無理だった。」

ただし郵便事業会社より日本の山岳切手が 5 回のシリーズで発行される」ということで田中名誉会長が山岳切手発行のサポートをすることになった。詳細については平成 23 年 5 月 15 日発行『登山月報』506 号 3P を参照ください。関係者の皆様にお詫び訂正をいたします。

事務局

訃 報

加須市山岳連盟会員の門間 充(もんま みつる)さん(68 歳)が 8 月 3 日加須市民体育館で、クライミング練習中に亡くなりました。通夜、葬儀には埼玉県山岳連盟、加須市山岳連盟他、関係者が多数参列しました。

謹んでご冥福をお祈りいたします 埼玉県山岳連盟

.....

各種競技会では、主にビデオジャッジを担当し、最近の練習は 5.12C にもチャレンジしておりました。練習中の、あまりにも突然の出来事で、亡くなった事が今でも信じられません。誰とでも気さくに話す、娘思いの心優しい人でした。 加須 CC ビナ 土屋正昭

【編集後書】

先日の午後に広報委員会で初めての委員会(今年度から彩岳悠会・笠原理事が広報副委員長に就任)を開催した、今後の広報発行の役割、指針について長時間討議し問題は多々あるがまずは行動を起こすことで合意。

今後は企画委員会とも連携して、更なる事業発展をしたいとの意気込みで『原稿お願い』をより強化する方針。

都合により広告は次号 41 号(平成 24 年 1 月)より載せることになりました。

猛烈な残暑が一転冷秋と駆け足、山からの雪便りもまもなく..... @miwaida